



広島経済大学 キャリアアップ・プログラム通信(第 254 号)

2020 年 2 月 13 日 配信



◆広島経済大学 社会人対象講座キャリアアップ・プログラム◆

<https://www.hue.ac.jp/visitors/local/careerup/index.html>

◇キャリアアップ・プログラム講師のリリースコラム◇

「会計情報について」

広島経済大学 経営学科 助教
3 学期「財務会計の基礎」講師
角 裕太

社会を構成する 1 つの要素である企業は、その情報を社会(利害関係者)に開示することが求められている。とくに、会計に焦点を当てると、決算書類に関連した会計情報(財務情報に加えて、非財務情報も含む)がそれに該当するだろう。

決算書類の開示は、今に始まったことではなく、時代を遡ってみれば、戦前においても行われていた。例えば、自動車メーカーである A 社の 1934 年の決算書類(営業報告書)においては、営業の概要、貸借対照表、損益計算書、利益処分案などが開示されていた。その中でも、同年の損益計算書について見てみると、「製品販売益」(収益項目)にはじまり「差引当期利益金」(利益項目)に至るまでの収益・費用・利益に関する項目すべてをあわせても 7 つの項目しか開示されておらず、(利益の)区分表示もなされていない。また、決算書全体の頁数は 14 頁となっている。それに対して、2018 年の同社の決算書類(有価証券報告書)において、損益計算書の項目数はおおよそ 16 項目であり、区分表示がなされている。そして、一部項目については、その明細も把握することが可能となっている。さらに、報告書全体の頁数は、184 頁となっており、(1934 年とは書き方も異なり、単純比較することはできないけれど)開示される情報量が増加していることが分かる。

上記のように、昔と今を比較すれば、開示される会計情報の量とその質は大きく変化している。それは、有価証券報告書以外での会計情報の開示、例えば、企業が独自に作成・開示する CSR 報告書とアニュアルレポート、それらを統合した統合報告書にも顕著に現れている。加えて、決算書類が開示されるスピード・タイミングについてみても、1930 年代には半期決算であったが、現代においては、四半期決算(決算短信など)となっている。

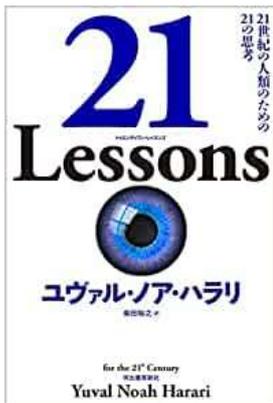
今後も、企業が社会に開示する(または開示しなければならない)会計情報の量・質・スピードは変化していくと考えられるが、その中で企業はもちろんのこと、その利害関係者も同様に、その状況に適応していく必要が

あるだろう。その際には、会計情報を読み、判断する力がより強く、そして柔軟に求められるようになるから、そのための準備が常に必要になると考えられる。

>>今年度のキャリアアップ・プログラム講師のリレーコラムは、今回で終了です。ご愛読いただきありがとうございました。来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

◆今週の一冊◆

角先生おすすめの書籍です。



『21 Lessons:21 世紀の人類のための 21 の思考』 ユヴァル・ノア・ハラリ著 柴田 裕之訳 河出書房新社

『サピエンス全史』、『ホモ・デウス』でもそうであったように、著者による仏教への言及が本書でも多くみられます。とくに、「20 意味 人生は物語ではない」と「21 瞑想 ひたすら観察せよ」はその考え方が色濃く出ており、この部分だけでも読む価値があると思います。

◎事務局から◎

2020 年度のキャリアアップ・プログラムの申込み開始は、2 月下旬を予定しております。

詳細については、以下URLをご確認ください。

《キャリアアップ・プログラム》

<https://www.hue.ac.jp/visitors/local/careerup/index.html>

※ご意見・ご感想はこちらまで career-up@hue.ac.jp

※配信解除はこちらから行ってください。

<https://y.bmd.jp/bm/p/f/tf.php?id=0828719345&task=cancel>

※広島経済大学 オフィシャルサイト <https://www.hue.ac.jp/>

発信元:広島経済大学 教育・学習支援センター キャリアアップ・プログラム事務局 (082-871-9345)